



ケンブンスイッチ

9月号



クリスマスカードや年賀状、 紙とデジタル、どちらを選びますか？

2025年も後半に差しかかり、少し早いですが年末の準備にかかる方もおられるのではないのでしょうか。今年は、クリスマスカードや年賀状といった季節の挨拶状を、デジタルで送ることを考えてみてはいかがでしょうか？

デジタルの挨拶状には、開封率や即時性、そして環境配慮など、さまざまなメリットがあります。中でも特筆すべきは「開封率」の高さです。一般にメールの開封率は20～30%程度とされ、SNSを併用すれば、その数値をさらに上向かせることも可能です。即時性も魅力で、イベントや記念日に合わせてタイムリーにグリーティングを届けられます。

また、動画やアニメーションなど、表現力が多彩な点もデジタル挨拶状の特徴。リンクの埋め込みによって、自社サイトや特設ページへ簡単に誘導することができ、クリック率や訪問者数を計測することで、挨拶状の効果を見える化することもできます。

環境配慮の点でも、デジタル挨拶状は注目されています。

紙の挨拶状では用紙、インク、輸送エネルギーが必要ですが、デジタルではそれらの資源消費を減らすことが可能です。たとえば紙の年賀状を100通減らせば約1.2kgのCO2排出量が削減でき、コスト削減も期待できます。

以上、デジタル化のメリットを見てきましたが、それでも紙の挨拶状には、捨てがたい味わいがあるのも事実です。加飾印刷による年賀状や、キリヌキや折り曲げによって立体化するグリーティングカードなど。それらはいつまでも机上やお手もとで、お客さまの目や指先を楽しませてくれることでしょう。研文社は、デジタルと紙のどちらでも皆さまの期待を超えるアイデアと仕上がりをお約束します。ぜひお気軽にご相談ください。

デジタル年賀状については、
コミュニケーションサプリの記事もご覧ください。

<https://www.kenbunsysa.jp/commusapu/design/9697/>

